



Closure report 2022

終了報告書

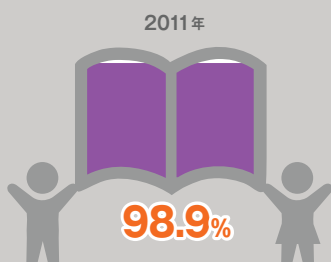
モンゴル国
バヤン・ウルギー地域開発プログラム
MOG- 184842 (2006年～2022年)



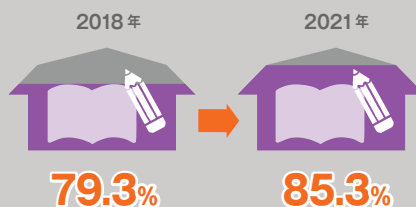
ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

義務教育の就学率



子どもに必要なものを 家計から用意できる世帯



過去1年間に 「身体的な暴力を受けたことがある」と回答した若者



Education



教育

学習環境を改善し、
学びの質の充実へ

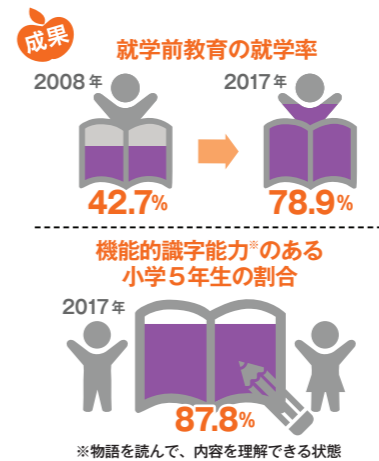
支援地域は厳しい寒冷地であるにもかかわらず、学校内の暖房設備が十分に整っていないなど、学習環境に大きな問題がありました。また幼稚園への就園率が低いことも課題でした。こうした状況を改善するため、支援を通じて学校・幼稚園の施設の改修や備品の供与などを行い、教員の能力強化のための研修も実施しました。その結果、障がいを持つ子どもたちを含む地域の子どもの学習環境や学びの質が向上し、幼稚園の就園率は支援開始時から1.8倍に増加しています。また、遊牧民の子どもたちが学期中に生活する寮の修繕、子どもクラブの活動の支援などの取り組みを通じて、子どもたちが安全な環境のもとでさまざまな活動に参加し、幅広い学びと、成長の機会を得ることができるようになりました。



支援後 教員を対象とした研修の様子



支援後 学校の設備が整えられ、学びの環境が改善しました



Livelihood



生計向上

災害への備えと、
安定した収入を得るための
基盤づくりを支援しました

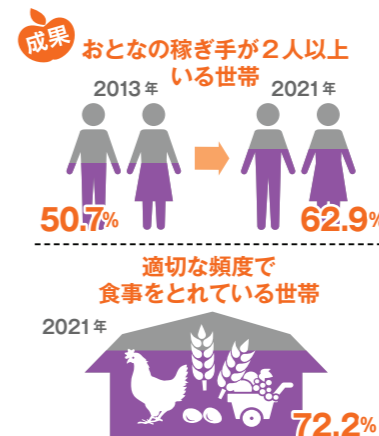
地域住民の多くは牧畜業や農業、小規模ビジネスなどで生計を立てていますが、「ゾド」と呼ばれるモンゴル特有の寒雪害（豪雪や氷点下40度以下の極寒が続く現象）や、洪水など自然災害の影響もあり、失業率や貧困率が高い状態でした。そこでさまざまな職業訓練と、その運営・会計管理に関する研修を行い、収入向上の手段を得られるよう支援しました。また貯蓄グループを通じて計画的な家計管理を実践することで、多くの住民が子どもの将来のために貯金ができるようになりました。また、行政と連携して災害リスクを低減するための研修を実施し、収入や生活基盤を脅かす災害への対策と備えを多くの住民が学びました。



支援後 調理の職業訓練の様子



支援後 家庭菜園の道具の支援を受けた人びと



Health



保健衛生

安全な水と
栄養プログラムを通じて、
健康が守られています

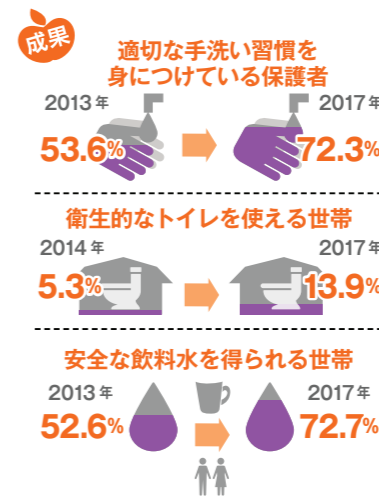
この地域では水源が限られているため、安全でない水を利用せざるを得ない住民が多く、大勢の人が水を原因とした感染症に苦しんでいました。また、栄養についての知識不足や貧困などの理由から、栄養状態の悪い子どももたくさんいました。そこで母子保健や栄養、感染症予防などに関する啓発活動を通じて、知識や対処方法を伝えました。また、栄養改善プログラムを通じて栄養ある食事の作り方を伝え、定期的に子どもの体重測定を行う習慣が地域に普及したことで、700人以上の子どもたちが栄養不良から回復しました。衛生的な飲み水へのアクセスや手洗い習慣も定着してきており、地域住民や子どもたちの健康が守られるようになりました。



支援前 くんできた水で手洗いをする子どもたち



支援後 学校に新しい手洗い場ができ、せっけんできれいに手を洗えるようになりました



Child Protection



子どもの保護

さまざまな研修や啓発活動が、
地域全体の行動変容に
つながっています

支援当初は、子どもの保護や権利についての意識が低く、体罰や深刻な人権侵害の事例もありました。そこで行政、専門家、地域のリーダーらによって構成される子ども保護チームや保護者委員会を各地区に設置し、継続的な活動を行いました。行政・教員・保護者・住民、そして子どもたち自身を対象に子どもの保護に関する研修や啓発活動が数多く実施され、その結果人々の意識や行動が変わっていきました。地域行政に対して子どもたち自身が意見を表明する「子どもフォーラム」も定期的開催され、学校や地域の安全な環境づくりに子どもたちの意見が反映されました。こうした支援を通じて、子どもたちは以前よりも自信を持って発言し、行動できるようになっています。



支援後 学校に設置された図書室で読書を楽しむ男の子たち



支援後 子どもクラブでライフ・スキル(日常生活で生じるさまざまな問題に対処するために必要な能力)研修を受ける子どもたち



マネージャーよりごあいさつ



バヤン・ウルギー地域
開発プログラム
マネージャー
ジユマガル・ホントイ

親愛なるスポンサーの皆さま、約16年もの長い期間、バヤン・ウルギー地域の人々や子どもたちを支えていただき、心から感謝いたします。プログラム開始当初、人々は貧困や栄養不良、また度重なる自然災害などに苦しんでいました。しかし長期的なご支援を通じて、貧困世帯の所得と生活が改善され、子どもたちの基本的なニーズが満たされるようになりました。また人々は子どもの保護、保健・衛生、ビジネススキルなど、たくさんの知識を得て、それらを日常生活の中で生かすことができています。バヤン・ウルギー地域は、これからも明るい未来へと向かって前進していきます。尊いご支援を本当にありがとうございました。

地域代表者からのごあいさつ



スクールカウンセラー
アイバット・マネン氏

この地域では以前、子どもの保護に関する理解や体制が不十分で、住民の間でも、子どもの権利を守るという意識が十分ではありませんでした。しかし、皆さまの温かいご支援を通じてさまざまな施策が実施された結果、今では地域の人々、学校、行政による協力のもと、子どもたちは大切に守り育てられています。こうした取り組みは、子どもたちの自信や将来への意欲につながり、地域全体に良い変化をもたらしています。これからも私たちは、子どもの安全と権利を守るための活動を続けていきます。これまで支えてくださった日本のスポンサーのみなさまに、地域住民を代表して心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

皆さまとともに歩んだ 16年間の支援と成果

準備期
2007年度
▼
2008年度

- ◎ 事業対象地域での状況調査
- ◎ 事業計画の立案、事業実施体制の整備
- ◎ 地域政府や住民との相互理解と関係構築



支援地域に暮らす子どもたち



支援開始当初の住居の様子

第1期
2009年度
▼
2013年度

- ◎ 子どもたちのより良い学習環境整備のため、幼稚園・学校の設備を改善
- ◎ 200人以上の子どもたちが子どもクラブに所属し、音楽や伝統舞踊などさまざまな活動に参加
- ◎ 学校を中退せざるを得なかった生徒たち150人のための補習クラスを実施
- ◎ 行政と連携して、障害をもつ子どもの支援センターを設立。60人の子どもが在籍し、さまざまな活動に参加
- ◎ 200人以上の子どもが家庭での栄養改善プログラムに参加。母親グループへの栄養研修を実施し、631人の2歳未満児と1,071人の妊婦にビタミンなどの栄養補助剤を支援
- ◎ 40の貯蓄グループが形成され、うち30グループが自立運営に移行



支援によって整備されたパソコン室で学ぶ男の子



ワールド・ビジョンが主催したダンスの大会に出場した子どもたち

第2期
2014年度
▼
2018年度

- ◎ 幼稚園・学校・学生寮の衛生設備などを改善し、3,975人の生徒により良い学習環境を提供
- ◎ 167人の教員に能力強化研修を実施し、教育の質の向上を支援
- ◎ 子どもクラブの活動を通じて、子どもたちの多様な体験と学びを促進
- ◎ 栄養改善プログラムを通して、83人の子どもが栄養不良から回復
- ◎ 衛生についての研修実施により、保護者の手洗い習慣やトイレ使用率が全国平均を上回るなど衛生行動が定着
- ◎ 798人が職業訓練に参加後、小規模ビジネスのグループを作り、うち11グループが自立運営に移行
- ◎ 体罰に頼らない接し方など、子どもの保護に関する研修や啓発活動を実施。また住民・行政・専門家で構成される6つの子どもの保護グループが設置された



小規模ビジネスグループの研修の様子



安全な水を得られる設備が整備されました

第3期
2019年度
▼
2022年度

- ◎ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校の休校期間中に、住民・図書館員・行政職員による家庭訪問を実施。子どもへの本の読み聞かせも行った
- ◎ コロナ禍で生活が困窮する世帯への生活物資や、621人の子どもへの学習教材や文具の供与を実施
- ◎ 小学校45校、学生寮14か所、幼稚園27校に、新型コロナウイルス感染症対策として塩素と消毒液を提供
- ◎ 880人の医療従事者に感染防護用品、主要クリニックに医療用酸素ボンベを提供
- ◎ 256人の保護者に対し、保護者・行政・学校と連携した子どもの保護に関する啓発活動を実施。72の保護者グループが設立され、学校や公的施設で活動を継続している
- ◎ 貯蓄グループの自立を支援
- ◎ 398人の住民に、災害に対する生計レジリエンス強化のための研修を実施
- ◎ 行政関係者や住民代表者らとの事業終了に向けたミーティングの実施



学用品の支援を受けた家族



子どもの保護に関する研修会の様子

支援を受けたチャイルドのストーリー

音楽をきっかけに、たくさんの研修に参加。
自分に自信を持つことができるようになりました！

チンギスさん
(23歳)

幼いころは内気で、田舎に住んでいる自分は、都会に住んでいる子どもたちよりも劣っている、と感じていたチンギスさん。2009年にワールド・ビジョンのチャイルド・スポンサーシップに出会い、支援を受けながらさまざまな研修に参加すると、どんどん自信が持てるようになりました。「小学生のときに伝統的な楽器を習ったことがきっかけで、学校のあらゆる芸術活動に参加するようになりました。高校では、子ども向けの研修に参加しましたし、カザフスタンの大学に留学もできました。大学生の科学会議に参加して1位を獲得したこともあるんですよ」

現在チンギスさんは、首都ウランバートルにある学校のオンライン授業を受けながら、食料品や日用品を扱う小さなお店を営んでいます。さらに地域の子どものために役に立ちたいと、青少年クラブに所属し、地元の行政組織と協力して清掃を行ったり、スポーツ大会を開催したりするなど、さまざまな活動に意欲的に取り組んでいます。

「私には将来のビジョンと目標があり、それらを達成することができると確信しています。こうして希望を持てるようになったのは、スポンサーの皆さまの温かいご支援があったからです。心から感謝しています。本当にありがとうございました」

